

平成 20 年 11 月 14 日 記者会見 質疑応答（埼玉）

発表内容：平成 20 年度中間決算について

日 時：平成 20 年 11 月 14 日（金）15 時 45 分～16 時 15 分

場 所：埼玉県政記者クラブ

発表者：埼玉りそな銀行 社長 川田 憲治

【質疑応答】

Q．与信費用は業種別でみると建設・不動産の割合が多いのか？

A．金額的には建設・不動産の割合が多いですが、件数的には全業種に渡っています。

Q．下期の与信費用の見込みは、この程度で良いのか？

A．通期で 230 億、下期は 50 億程度の見込みです。上期に一般貸引で引当てを強化しましたので下期は一般貸引の増加は限定的とみています。債務者区分の劣化については上期と同水準で見込んでおります。再生支援に力を入れ、債務者区分をランクアップさせることや資金回収などで引当金の戻りを見込んでおり、現状の想定ではトータル約 50 億円とみています。しかし、これ以上、景気がダウンサイドに振れると、見込みを上回る可能性も否定できないと思います。

Q．先行きの見通しをどのようにみているか？

A．景気動向に関しては、残念ながら今年度を見通して明るい材料は見当たりません。従いまして、さらに景気が悪化するとみています。

Q．相対的に日本経済全体と埼玉県経済を比較した場合、埼玉県経済はまだ良い方だという印象を持っているか、それとも平均並みに厳しいという印象をもっているか？

A．前年度までは埼玉県の経済成長率は、日本経済の経済成長率を上回っておりましたが、今年度は様相が違ってきていると思います。一つの要因は住宅関係、例えばマンション販売の落込み率は首都圏の中で埼玉県が一番大きくなっています。もう一つは、企業の設備投資関連です。今まで堅調に推移してきた企業誘致ですが、進出先は自動車関連と流通が多く、これらの企業はグローバルに生産をみているので、自動車販売の低迷によって設備投資を若干先送りするだとか、あるいは投資計画はあるのですが、そのタイミングをずらすという動きが出ています。そういった面では下振れするリスクが埼玉県にも出てきたというようにみえています。

Q．全国平均と比べて下振れするということですか？

A．そういう可能性もあるということです。ただ、そのような設備計画などを持っているという埼玉県のポテンシャルがありますので、景気動向次第で急激に反転する可能性もあります。現時点での将来の予測は難しいですが、先々は明るい見通しもあるというように思っています。

- Q . 一般的に景気が後退している中で、貸し渋りの話が顕然されているように思うが、金融機関の代表として反論あるいは意見を聞かせてほしい？
- A . 受け取り方の問題もあると思いますが、貸し渋りをしていることはありません。特に弊社の中小企業貸出は、前年同期比で 281 億円増加しております。平成 20 年 3 月比でも、全国平均では 3% のマイナスですが、弊社では 1% のマイナスです。埼玉県内に関しては安定的な資金供給ができていると考えております。もう一つ、中小企業貸出の円滑化に重要な保証協会付貸出があるのですが、埼玉県全体の 3 月末の保証協会貸出残高は 1 兆 2,617 億円です。9 月末は 1 兆 2,606 億円と、ほぼ横ばいとなっております。弊社は、この期間 40 億増加させています。そういう意味では金融機関の姿勢としては精一杯がんばっているという認識があります。ただし、窓口対応の問題や説明不足などで、貸し渋り批判を受けることは認識しております。
- Q . 預貸率の伸びが若干鈍化しているようだが、今後の有価証券運用の方針は？
- A . 統合リスク管理の中でリスク配分をして運用をしています。地域金融機関として、まず第一に、信用リスクのところにウエイト配分をしています。地元のお客さまに対する資金供給に伴うリスクを優先的に考えています。従いまして市場関連でのリスクを極力抑えた形でのリスク配分をしておりますので、有価証券においては安全性の高いもので運用していくという方針に変わりありません。
- Q . 更に景気は悪化すると言っていたが、(埼玉県内で)最も懸念されている材料というのはやはり自動車関連業ということか？
- A . 県内の自動車関連企業の裾野は広いですから、そういう意味では一次下請け、二次下請け、三次下請けという、それぞれの関わり合いで中小企業の売り上げが落ちるということは想定できますので、やはり自動車関連は懸念されます。建設・不動産に関しては引き続き低調だろうと思っています。また小売業の動向をみても今のところいい材料もないですし、そういう意味ではかなり苦戦といえると思います。
- Q . 景気について年度内は明るい材料はないということだが、政策的に期待するものは？
- A . 金融政策面では先日の日銀の利下げで打つべき手は打っていただいているという認識でおりますので、あとは財政出動がどこまでスピーディーに実現するかで立ち上がりのスピードが変わってくるのではないかとみています。

以上